

授 業 名 授 科 目	神経内科学Ⅱ		授 業 形 態	講 義
			配 当 学 期	2 年 (前期)
担 当 教 員 名	井宮 雅宏、沖田 任弘		単 位 数	1 単 位
			時 間 数	30 時 間
授 業 概 要 学 習 目 標	〔授業概要・学習目標〕 神経内科学Iで、神経解剖、神経徴候の理解は得られたものと考え、神経内科学IIは実際の疾患の解説を中心に行う。この中では、神経内科学Iでも述べたよう①病巣診断 ②病因診断(疾患の特定)と2段階の手続きをしっかりと覚え、あまり細かい事にとらわれないようにして、疾患のイメージをもてるようにしていただきたい。神経内科学IIで、各論の残り、つまり感染症、パーキンソン症候群、認知症、運動ニューロン疾患などについて学んでいく。神経は難病が多く、最新の知見も含め解説する。			
授 業 回 数	授 業 の 内 容			
第 1 回	頭部外傷・てんかん			〔井宮〕
第 2 回	脳腫瘍・中枢神経感染症			〔井宮〕
第 3 回	パーキンソン病①			〔井宮〕
第 4 回	パーキンソン病②・パーキンソニズム			〔井宮〕
第 5 回	パーキンソニズム・脊髄小脳変性症			〔井宮〕
第 6 回	脊髄小脳変性症・不随意運動症			〔井宮〕
第 7 回	認知症			〔井宮〕
第 8 回	運動ニューロン疾患			〔井宮〕
第 9 回	脱髄性疾患			〔井宮〕
第 10 回	末梢神経疾患			〔井宮〕
第 11 回	脊髄・脊椎疾患 自律神経障害			〔井宮〕
第 12 回	ミオパチー・先天異常			〔井宮〕
第 13 回	代謝性疾患・中毒			〔井宮〕
第 14 回	病変部位別の症状について(復習)			〔沖田〕
第 15 回	まとめ			〔井宮〕
評 価 方 法	小テストを随時行う。最終テストを 80%として、小テストの合計を 20%の評価割合とする。60%以上獲得が合格の条件。レポートはなし。			
教 科 書 参 考 図 書	〔教科書〕 リハビリテーションのための神経内科学 (医歯薬出版) ベッドサイドの神経の診かた (南山堂) 〔参考図書〕 神経内科ハンドブック (医学書院) 臨床神経学の基礎 (メイヨー医科大学教材)			
履 修 上 の 留 意 点	細かい徴候などにとらわれないこと。①どこの部位の病気か?(脳、脊髄、末梢神経、筋肉) ②原因はなにか?(不明のものも多いが、今どう考えられているか) ③予後は?(治療法があるのか、進行のスピードは、今後どうなるのか) などのある程度理解しなければ、患者さんと心の通った療法はできない。			
メ ッ セ ー ジ	中間テスト、最終テストの直前に試験のポイントを述べ、できるだけ出席者全員が合格できるように祈る。			